

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500085		
法人名	ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム かなれ ユニット1		
所在地	愛知県名古屋市中東区猪子石原3丁目2713番地		
自己評価作成日	平成28年1月26日	評価結果市町村受理日	平成28年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成28年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様がその人らしく穏やかに生活できるように、またできることはご本人様のペースで参加して頂きながら、できないことは支援させて頂いております。また、室内を清潔に、清掃、消毒等も含め、衛生面にも気をつけております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の理念「その人らしさ」を大切にしたいと考えており、目指す介護の形をわかりやすい言葉で表現した事業所独自の理念を職員と話し合い、実践に繋げている。具体的には、一人ひとりの得意なこと、脳トレであったり、家事活動、趣味等で達成感を味わい、できない部分はそっと支援し、その人らしい生活が少しでも継続できることを願っている。試行錯誤の中で初開催の「夏祭り」は多くの参加があり、地域や家族との繋がりが拡大し、今後も続けたいと思っている。各種年代層の職員構成は良いチームワークとなっており、開設当初からの職員をはじめとして定着率も高い。管理者は3年を経て、心のゆとりもでき、運営推進会議での情報を生かし地域交流の機会を増やし、「ここで生活できて良かった」と言われる施設にしていきたいと考えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	念頭にいれ、職務に励んでいる	法人の理念「その人らしく」を主軸に、事業所が目指すことを介護職員と話し合い、独自の理念を初めて作成した。リビングに掲示し、会議やカンファレンス等で利用者の自立支援や意向が反映される介護を目指して意識づけを図っている。	
(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩をしながら、地域の方々の顔を覚え、認識もして頂けるよう挨拶、時には会話をしている。夏には夏祭りをして、	町内会に加入し、回覧板で地域情報を得て行事に参加している。すぐ隣の家からみかんを頂くこともある。ボランティアの訪問は、バイオリンや大正琴の他、大人気のお化粧があり、女性利用者の張り合いや楽しみに繋がっている。	
	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方にお話しをしたりしている		
(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々なご意見を頂き、できることから、実践している	会議では日頃の活動や行事報告に加え、医療や介護報酬に関する議題を設けている。意見交換や情報提供が参加者より活発に行われ、また、施設見学を盛り込むこともあり、一層の現状実態把握に繋がっている。	
(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括の職員の方に運営推進会議に参加して頂く中で、取組みをお話している	更新手続き等で担当部署へ出向き、情報交換を行なっている。いきいき支援センターとは空き情報や困りごと相談で協働している。研修は内容に応じて管理者や職員が参加し、会議でその都度報告している。	
(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない してはならないという認識をもっている	会議の中で「身体拘束」について折に触れ話し合い、職員は内容について理解している。2階フロア入口は、安全面を考慮し、家族の了承を得て施錠している。不穏時にも職員の見守りで拘束をしない介護に努めている。行動を制止するような言葉使いへの意識付けにも取り組んでいる。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部職員は学ぶ機会があり、申し送り、会議時に話す機会あり、虐待防止に努めている		
	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中でも利用されている方がいる。利用者様それぞれの状況を把握し、必要性があれば、管理者を中心に支援している		
	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が図っている		
(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見お聞きすることがあれば、運営に反映させるよう努力している	家族に年2回、「介護に関する要望書」を送付し、意見や要望の把握に努めている。面会時の対応は管理者に1本化し、申し送りノートで職員と共有し、日常ケアや介護計画に反映している。	
(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の会議の時等に、職員の意見を聞く機会を設けている	職員とは会議や申し送りで意見交換や提案を聞いている。まずは否定せず、聞くことを心掛け、実行できるか否かを判断している。会議に参加できない場合は事前に提出し、話し合い事項に組み込まれている。個人面談を年2回行い、個人の抱える悩みや問題の把握にも努力している。	
	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員が一丸となって働くことにより、やりがい、向上心が芽生え、実績や努力につながり、今の状況があると感じる		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があるが、回数が少なく、全員が参加できていない		
	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等があった場合、他施設の方との交流をしている。		
	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、不安をうちあけて頂けるような関係づくりに努めている		
	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が導入段階は対応している		
	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者を中心に、必要な情報は皆で共有し、支援に努めている		
	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の立場を自分に置き換えて、一方的にならないケアに努めている		
	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様の絆を主とし、よりその絆が深まるよう、負担にならぬよう職員は本人を支えている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の家族と相談させていただき、支援に努めている	友人や親せきの訪問時には、居室でゆっくりと過ごしてもらい、家族と外出、墓参りや毛染めに美容院に出かける人もあり、各々の生活習慣を大切にしている。手紙や電話の取次ぎも可能で、関係継続には希望があれば、できる限り支援していきたいと考えている。	
	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	把握し、配慮し、いつも賑やかな生活である		
	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了したサービス内容を忘れず経過を見守っている		
(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様にお聞きし、本人様が困難な場合は、家族様にもご意向を聞いている	直接本人に聞いたり、意志疎通が困難な場合は家族の意見を参考にしながら、日々の関わりの中で声掛け、表情や仕草等から思いや意向を把握し、把握したことを記録ノートに記入、または、口頭で伝える等共有しながら支援に努めている。	
	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	形や内容を変えてでも、できる限りそれに近い把握に努めている		
	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を把握し、状態を見極めている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	細かく話しあい、作成している	モニタリングやアセスメントは3か月毎に担当職員が評価し、家族には「介護に対する要望書」として意見を聞き、これらを職員会議で話し合っ て、利用者、家族、職員の意見が反映された介護計画が6か月毎に作成されている。	
	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で気づいた情報を共有しアイデアも取り組んでいる		
	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り、満足して頂ける様多機能化に取り組んでいる。歯科、眼科往診、マッサージ対応等		
	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からのボランティアさんとの交流等により、豊かな生活につながるよう努めている		
(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を行っている。専門外の治療であれば、かかりつけ医が適切し、指示をだし治療ができるよう支援している	協力医の変更後も以前と変わらず月2回の往診が行われている。他にかかりつけ医、歯科の訪問も受けている。専門外受診は管理者を通して医院に連絡され、何か有れば紹介状を出して貰い、基本的に家族の付き添いのもと、受診している。	
	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医、又は看護師と常に連絡ができ、相談ができる体制になっているので、状態の変化がみられれば、連絡を取り指示を仰いでいる		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院に情報提供書を送り、情報交換をしている		
(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、医療機関等の話し合いの場を設けて事業所でできることを説明しながら、支援できるように取り組んでいる	入居時ホームで出来る事出来ない事を説明し、家族から同意書が得られている。医療行為になるまで出来る限り家族の意向に沿えられるように努めている。今後はホームで看取り支援が出来るように繋げていきたいと考えている。	
	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は受けていないが、応急手当等の訓練を行なう予定をしている		
(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を行なっているが、地域との協力体制は築ききれしていない	9月に業者立ち合いのもと、職員と利用者で昼間想定避難訓練を行い、初期消火を実施している。その際に避難経路の確認も行っている。備蓄品は水、ビスケット、コンロ、缶詰等常備されている。	消防署員立ち合いのもと、夜間想定避難訓練の実施や、地域住民との協力体制作りにも期待したい。
(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりどのような方であったか、把握に努めている	人として敬い一人ひとりケアの仕方は違うので、それぞれの思いを受け入れ、プライバシーや羞恥心への配慮には常に注意し、その人にあった言葉掛けや対応に努めている。	
	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望は表に出して頂ける様努めている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、その日をどのように過ごしたいか、すべて希望に沿うことは無理であるが、なるべく希望にそうように努めている		
	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる範囲で支援している		
(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で利用者様に参加していただき、支援している	献立は利用者の好みも取り入れ職員が考えている。出来る範囲で食器洗い、食器拭き、野菜の下ごしらえ等手伝って貰っている。利用者の状態に合わせてミキサー食、刻み食を提供している。また、おやつのおはぎ、ホットケーキ等は手作りされている	
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士のようにはできていないが、一人ひとりの状態に合わせて提供している		
	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいができない方は、口腔ケアスポンジを使用し、口腔内を清潔に保つなど、一人ひとりに合わせケアをしている		
(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄したい時の利用者様のサインを見逃さず、排泄パターンを守り、トイレ内での排泄に努めている	利用者の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を見ながら適時に声掛けてトイレ誘導を行い、自立に向けて支援している。夜間は自立の人の見守り、声掛け誘導、パット交換等それぞれに合わせたケアを行っている。	
	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージをし、腸の動きを高め、時には下剤で調整し、便秘の予防に努めている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決まっている。入浴を怖がってしまう利用者様には安心できるよう声かけ、介助をしている	個浴、機械浴共に週2回午後に入浴し、機械浴は職員2人体制となっている。楽しめるように菖蒲湯、柚子湯、入浴剤を提供したり、ゆっくり寛げるように入浴の順番を変える等利用者に合わせて工夫している。	
	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状況に応じ臥床を取り入れ、入眠前は穏やかに過ごせるよう努めている		
	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの健康状態に気をつけ、変化を見逃さない様努めている		
	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	適した役割を見出し、活かせるよう努め、レクなど楽しみを取り入れ、気分転換の支援をしている		
(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に行っている。本人様の希望を家族様にお伝えし、外出されることもある。	暖かい日は午後の散歩や喫茶店、スーパーに出掛けたり、花見、初詣、近場のドライブ等の外出支援も行っている。家族の協力を得て外食、自宅、美容院、墓参りに行く人もいる。	
	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者がおこなっている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からの希望があれば、電話、手紙等のやりとりを支援している		
(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい陽射しがはいつてくるリビングなので、光の入り具合は調節している。時には季節のお花をかざっている。混乱しないようトイレには張り紙をしたり工夫をしている	食堂兼リビングのテーブルは利用者に合わせて配置の工夫がされ、ゆっくりと寛げるようになっている。玄関に飾られている花や、窓から見えるみかんの木から季節を感じることが出来る。窓を開けての換気やモップで次亜塩素酸の掃除を行い、感染症予防に心掛けている。	
	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを観たり、新聞を読まれたり、長椅子に座られ、利用者様同士談笑されている		
(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様、家族様の希望にそって馴染みの家具をお持ちいただいている	綺麗に掃除された部屋には馴染みの鏡台、筆筒、人形、椅子、家族写真等が置かれ、壁にはぬり絵、カレンダー、文化刺しゅう等飾られて、それぞれに居心地良い空間造りがされている。	
	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは、目に見える範囲にはおかず、自立した行動をする時には見守り、できることはご自身で行っていただいている。		